

【日中一時】（令和2年4月～令和3年3月）

区 分	延利用者数
	164名

### 3. 施設の運営

「生活介護事業」「施設入所支援事業」「短期入所」「日中一時」の4つの事業を実施する中で、今年度ははなえみの開所に伴い、昨年度から取り組んでいた日課内容を引き続き行った。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、様々な制限の中での運営となり、サービスを止めることなく、感染拡大防止策を講じる中での日中活動となった。

日中活動は、やまびこ園が入所施設であることも考慮し、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、通所グループと入所グループとで活動スペースを分け、それぞれに活動を提供した。

施設入所支援事業に関しては、入所に関する問い合わせが引き続き多い状況に変化はないが、定員に達しているため、入所待機を希望する方も数名出ている。親亡き後を見据え、通所サービスを利用している家族からの問い合わせも多くなってきている。施設入所支援における利用者状況については、医療機関との連携を必要とする県外から利用者が1名おり、現在は県外の自宅で療養しているが、今後の緊急時の対応も含め、現在相談の上調整中である。また、昨年10月から精神科に入院していた利用者については、病院のケースワーカーと退院時に向けたケース会議を重ね、11月より新設の生活介護事業所とやまびこ園の入所の併用で利用を再開した。

「短期入所」「日中一時」に関しては、利用希望が増えている状況に変わりはないが、「短期入所」については新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、利用希望については緊急性の高いケースを優先し、利用についても制限する形で対応した。

「日中一時」においては、土日は、4名～5名程度、平日は、2名～4名程度の利用に制限を掛けた。

職員の研修については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外の往来を控え、また県内においても、嶺北地域で開催される講義形式の研修への参加は控え、虐待防止や感染予防対策の研修はリモートやオンラインでの研修に参加した。また、サビ管基礎研修や強度行動障害支援者研修（基礎、実践）等、業務上必要な研修については開催地を嶺南に限り参加した。

園内研修としては、通年実施している救急対応訓練（心肺蘇生法）、不審者対応訓練の実施を継続し、1月には感染症対策としてガウンテクニックを含む実技の研修会を実施した。

職員の育成として、今年度も「根拠に基づいた支援」を目標に掲げ、自閉委員会では視覚支援の学習会とその知識を実際の支援に導入し検証する活動を継続し、入浴スキルの向上に向けた支援方法や、行動障害に対する支援、スケジュール支援にスポットを当てて、支援の方向性を共有した。高齢委員会では、還暦等の祝いをこれまで行っていなかったため、今年度は60歳以上の全ての利用者を対象とし、長寿の祝いを企画した。また、個別ケースに対して、数名の利用者に焦点を絞り、個別の支援について検討し、全体に周知し、取り組んだ。今後も、経験則ではなく根拠に基づいた支援が提供できるように、学習会で得た知識を現場支援や対応に繋げられる内容を継続していきたい。

#### (ア) 支援内容

生活介護事業において「やまびこ園で生きがいを感じる」ことに喜びや意欲を感じられる活動内容を目指した。はなえみの開設に伴い、これまでやまびこ園で課題となっていた「年齢幅の広い利用者への活動提供の難しさ」や「様々な特性のある集団での危険性」については解消され、穏やかで自分らしいペースの中でもやりがいや生きがいを見つけることができる活動の提供に重点を置き、スタートした。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動の制限を余儀なくされ、活動スペースを通所と入所でグループ分けし、それぞれに活動提供を行った。また、行事や誕生日の外出や買い物外出も中止し、園内でできる活動を模索した。「雨の日のパレード」や「やまびこフェス」「ハロウィンの仮装」といった季節を感じるができる行事や

余暇を職員の創意工夫の元、提供した。

施設入所支援においては、これまでできていた帰省についても制限を設け、園で過ごすこと時間が長くなる方が増えた。また、利用者の重度高齢化に伴い、それぞれの状態に合わせた介護用品や介護技術を職員で共有し、少しでも園内で快適に過ごすことができるように努めた。

個別支援計画においては、例年同様、各担当のうち1名の利用者分はサービス管理責任者が作成し、各担当が作成した個別支援計画を確認することで支援内容等の検討を行った。

#### (イ) 日中活動の種類

「ワーク」：ウエス、ペットボトルラベルはがし、新聞紙たたみ、シュレッダー、メモ帳作り

「サロン」：絵画、四季の歌、塗り絵、紙芝居、ミニゲーム、近距離の散歩、軽運動、散歩、ボール遊び、健康体操、など

「リラク」：足湯、マッサージ、DVD など

「ボランティアによる活動」：今年度は活動なし

「余暇活動」：四季を感じることでできる行事を企画した。

#### 主な年間行事

月	行 事 名
4	花見散歩
5	入所余暇（フェス・ドライブ等）・春行事（こいのぼり作り）
6	歯科検診・春行事（雨の日パレード・楽器作り）・夜間避難訓練
7	夏行事（フェス）・利用者健診・職員健診・特別支援学校実習
8	入所余暇（やまびこオリンピック）夏行事（やまびこ縁日）
9	夏行事（やまびこ縁日）・長寿の祝い
10	秋行事（リース作り・仮装）・避難訓練・特別支援学校実習
11	秋行事（落ち葉）・利用者秋季健診・インフルエンザ予防接種・特別支援学校実習 保護者会懇談会
12	冬行事（クリスマス会）・入所余暇（クリスマス会）
1	夜勤者健康診断・冬行事（新年会）・入所余暇（お正月）・園内研修
2	ゆうあい倶楽部贈呈式・冬行事（節分、お茶会）
3	

定期実施項目：職員会議、支援会議、自閉・発達委員会（虐待防止及びコンプライアンス委員会は職員会議内で実施）、給食検討委員会、ハーツ便での買い物、広報紙発行

#### (ウ) 健康管理

2回の定期診断を実施した。嘱託医との連携を密に行い必要に応じて診断や治療を受診し、利用者の健康衛生、健康管理に努めた。

入所利用者においては、高齢化という面から入退院が多くなっているため急変時の対応や病院との連携が求められた。看護師のみによる対応ではなく、主任支援員、リーダー支援員が同様の対応ができるようにした。口腔ケアの充実と疾患の早期発見を目的として、月に3回往診を行っている。

今年度は、インフルエンザ罹患者はいなかったが、新型コロナウイルスの脅威に晒され、日々の感染対策と有事に備えた対策が必須であった。日中のこまめな検温、利用者の体調観察をきめ細かく行い、発熱ある場合は居室を隔離するなどの対応を行った。また、通所に関しては、37.5度以上の体温がある場合の利用自粛を要請し、また不要不急の県外の往来についても控えるようお願いした。やまびこ園は「入所施設」であり、30名の利用者の生命と健康を守るという責務を果たせるよう「感染症対策マニュアル」に基づき、徹底した対応を今後も行っていく必要がある。

項目	業務の具体的内容等
医療保険	保険証・医療費受給者資格者証の保管等
健康管理	春季健診（身長・体重・血圧測定、検尿、血液検査、心電図、胸部レントゲン、聴診、問診） 秋季健診（身長・体重・血圧測定、検尿、聴診、問診） 歯科検診（1回/年）・往診による歯科受診（重度の方の希望者を対象） インフルエンザ予防接種、入所者・通所者→入所時健康診断書提出/健康調査票提出 体重・血圧（毎月） ブラッシング指導（1回/年）
定期与薬	処方内容の確認、投与後の全身状態などの報告
健康観察	カルテ作成と担当医師との連携。家族等からの情報収集及び分析並びに記録の保持。その他状況に応じた対応に心がけ、必要事項は看護記録として保存
薬品・衛生	医務室の管理、薬品、衛生材料等の発注及び必要物品の確保
材料購入・管理	緊急・応急の処置に対応する
受診	症状に応じ、受診科選択 定期投薬している利用者 → 定期受診（嘱託医） 必要に応じ 検査実施

#### (エ) 保護者との連携

例年、ワークサポート陽だまりとの合同保護者会は、数か月おきの理事会開催やミニ運動会・クリスマス会等の実施があったが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い、行事は実施しなかった。11月には保護者会懇談会が開催され、事務局長と施設長が参加した。

#### (オ) 安全・衛生管理

##### ①避難訓練

危機管理の意識を浸透させ、年間を通じた防災意識を高めるため、夜間避難訓練を1回（6月）、日中の避難訓練を1回（10月）実施した。今年度は「訓練のための訓練にはしない」ことを目標として、6月の夜間避難訓練に関しては利用者にも職員にも発生時刻を周知せずに実施した。年々、利用者同士が協力して避難する姿が見られるようになってきているものの、利用者の重度・高齢化が進んでいるため、避難方法において車椅子の使用が増えてきた。その避難方法においても、特に夜間においては利用者同士の協力が不可欠になっている。

##### ②施設内環境整備

施設の老朽化に伴い、様々な箇所では修繕が必要になっている。優先度の高い修繕かどうかを見極めて実施をした。利用者の行為による破損も相次いだため、その責任の所在を明確にできるように「施設設備等物損状況報告」の書式での確認を継続した。

#### (カ) 地域住民やボランティアとの交流

地域住民との交流に関しては、黒河小学校へやまびこ園について説明のため訪問をした。これまで3年生の児童が缶を持参して来園し缶つぶしを体験する機会があったが、アルミ缶作業ははなえみに移行したことにより、今年度は実施しなかった。

毎月の長谷地区の高齢者サロン及びボランティアとの連携においても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、連携を控えた。

#### (キ) 実習生の受け入れ等

市内中学生の社会体験学習については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。

教員免許課程において必須となっている介護等体験の実習生と保育短大の施設実習生の依頼はあったが、入所施設という特性から、今年度はやまびこ園では受け入れず、はなえみでの受け入れを依頼し、やまびこ園としては受け入れをしなかった。

嶺南東特別支援学校高等部の現場実習においては、7月、10月、11月の3期に渡って受け入れを行った。

(ク) 苦情件数 0件

## 2. ワークサポート陽だまり

就労継続支援事業（B型）では、利用者全員が「自分らしく働く」ことを支援の目標とし、作業支援・生活支援を行った。特に、働く場としての意識を高めるため、利用者それぞれの得意・不得意を把握し、それに合わせた作業や環境を提供することで効率アップを図った。また、新型コロナウイルスなどの感染症対策にも力を入れ取り組んだ。

さらに、就労継続支援B型から就労を希望される利用者に対して、ジョブガイダンスや職業準備支援の参加を支援し、就労への意欲を高めた結果、1名の方が一般就労へ移行し、1名の方がA型事業所への就職を決めることができた。

土曜日開所についても、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされたこともあったが、年間12回開催することができ、延べ171名の利用があった。

就労移行支援事業は、利用者減少のため一年間休止した。

### (1) 施設の概要

- (1) 名称 ワークサポート陽だまり
- (2) 種類 就労移行支援事業(令和2年度は休止) ・ 就労継続支援事業B型
- (3) 所在地 敦賀市長谷47号29番地
- (4) 定員 就労継続支援B型40名

### (2) 利用者状況（令和3年3月31日現在）

#### 【年齢別】

区別	18～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
人数	11	3	5	7	8	5	2	3	0	1	0	1	26	20	46

- 【平均年齢】 男性平均 35.1歳（昨年度35.3歳）  
女性平均 41.1歳（昨年度39.1歳）  
全体平均 37.8歳（昨年度37.6歳）

### (3) 施設の運営

新型コロナウイルスの影響は大きく、利用者が長期にわたり自粛を余儀なくされることもあり、電話連絡での支援を行うこともあった。

また、8月頃までは一般企業からの作業の多くが停止し、販売会やイベントが中止となり、さをり織りなどの自主製品の販売先が減少した。しかし、逆境をプラスに変えるべく、布マスクの制作・販売をし、嶺北の企業からマスク製作の依頼を受け、コロナ禍でできる作業を模索して日々の作業を行ってきた。

受託作業は、以前から委託している幼児教材制作作業や食品関係の作業（昆布袋入れ作業、プラ板入れ、保冷バックの洗浄）、木材加工作業等を中心に行った。さらに、新規作業の開拓を行った結果、とろろ昆布の袋入れなどの新しい作業を受注することもできた。

施設外作業は、敦賀市から委託されている駅舎清掃や農福連携事業、福井県からの委託である

二州健康福祉センターのトイレ清掃等を行った。さらに、新規作業として法務局の除草作業を請け負った。しかし、新型コロナウイルスの影響から、特別養護老人ホームのフィルター清掃や、高速サービスエリアの花植えは中止となった。

また、自主製品については、マスク製作・販売を新たに開始したが、新型コロナウイルスの影響は大きく、例年より売り上げは約40%減となり、引き続き厳しい状況が続いている。

年間の工賃については、全体的な収入は下がったものの利用者数が減ったことにより、昨年とほぼ同額を支給することができた。

#### (ア) 支援内容

##### ①生活支援

基本的な社会のルールを守り、日常生活におけるよりよい習慣を身に付けることで、社会参加を進めるための支援を行った。

##### ②作業支援

作業を通して責任感・持続性・協調性の向上を図り、作業技術を習慣することで、働くことの喜びを感じる支援を行った。

##### ③実習・就労支援

企業、ハローワーク、就業・生活支援センター、相談支援事業所、他の福祉サービス事業所との連携により体験実習や、就労に向けた実習を取り入れた。

#### (イ) 健康管理

福井厚生連による総合健診を実施し、健康管理に努めた。また、毎日の健康観察や検温、手指消毒などを徹底し、感染対策に努めた。

#### (ウ) 保護者との連携

年4回、広報紙を発行し活動の様子を提供したり、希望者に個別面談を行ったりして保護者への理解を得た。また、必要に応じて電話連絡や自宅訪問、作業日誌で連絡を取り合うことで、利用者の状況を共有した。

#### (エ) 安全衛生管理

①9月23日と3月11日に避難訓練を実施した。

②作業場は常に整理整頓し、作業設備等の安全確認を励行し事故防止に努めた。

③利用者の使用する設備、食器等については常に衛生管理に努め、一日2回の館内消毒や、定期的な換気を行うなど感染防止対策を徹底した。また、食事前や施設外からの帰宅時には、手洗い等の支援も行った。

#### (オ) 主な年間行事

月	行 事
7	農福連携事業（東浦みかん） 健康診断（職員・利用者） 嶺南東特別支援学校実習受け入れ
9	避難訓練（地震想定）
10	嶺南東特別支援学校実習生受け入れ 就労アセスメント実施
11	インフルエンザ予防接種 職業準備訓練（就職サポート会議主催）